平成２４年度

学校飼育動物ネットワーク

（～子どもたちと動物とのよりよい関係づくり～）

事業実施報告書

園・学校名	松茂町　喜来小学校
校長名	三浦　良

１・飼育動物の現状・問題点等

喜来小学校では，ウサギを一羽飼育している。児童は，まじめに飼育に取り組んでおり，長期の休みの時でも当番を忘れないよう声をかけ合っている。餌やり，小屋のそうじは一日一回当番制で行っている。餌は，主にラビットフードを与えているが，クローバーや野菜・果物の皮を与える日もある。

抱えている問題点として，児童が飼育する動物がウサギ一羽しかいないことがまず挙げられる。現在飼育しているウサギは攻撃性が高く，以前一緒に飼っていたウサギを殺してしまったことがあるので，ウサギ一羽しか飼えていない。また，通常のウサギに比べて太りすぎているのではないかと児童が心配している。

２・事業内容（相談・ふれあい活動内容）

まず、愛護センターの方々と林先生に自己紹介をしていただいた後，児童がウサギや飼育動物について疑問に思っていること，不安に思っていることを質問させていただいた。児童は，ウサギの性別やウサギの好みの食べ物などたくさん質問していた。

次に，外に出てふれあい活動を行った。ウサギや猫・子犬などたくさんの飼育動物を連れてきていただき，児童は順番になでたり，抱っこしたりした。自分からは触れない児童も愛護センターの方に丁寧に抱き方や触り方を教えていただくと，自分から触れるようになっていた。

最後に，ウサギの心音を聴診器とスピーカーで聞かせていただいた。ウサギの小さな心音が聞こえてきた時，あまりの速さに驚いている児童が多かった。ウサギの心音を聞きながら，愛護センターの方から「捨てられてしまう犬や猫もいる。動物もみんな心臓があって生きている。皆はいのちを大切にしてください。」というメッセージがあった。この時のことをたくさんの児童が感想に書いている。「ウサギの心臓の音を聞いて人間の音よりも２倍くらいはやかったです。」「犬や猫やウサギにも命があるので，大切にするのを家族に教えてあげたいです。」また，こんな感想を書いている児童もいた。「捨てられてかわいそうな犬がたくさんいることを知りました。私は動物を飼う時はさいごまで飼いたいです」

活動終了後も林先生は残って，喜来小学校のウサギの健康状態をチェックしてくださった。さらに，後日時間が足りずに聞くことができなかった児童が考えていた質問の答えと一緒にウサギの健康状態をファックスで教えてくださった。

３・事業を通しての成果・感想

この事業を通して，児童は飼育活動をより積極的に行うようになった。ウサギの様子をよく見てうさぎの食欲がなく，ラビットフードを食べない時は野草を取りに行くようになった。特に獣医師先生からクリームは健康体だということを教えてもらえた事を喜び，自分たちの飼育活動に自信がもてるようになったようである。また，いのちについて考える貴重な時間にもなった。この事業に申し込んで本当に良かったと感じている。

学　校　名	鳴門市　堀江北幼稚園
園　長　名	久米井　明美

1　動物飼育の現状・問題点等

○　飼育小屋は中庭にあり，南向きで風通しや日当たりもよく飼育に適している。約１坪くらいの飼育小屋に２匹（雄・雌）飼育している。
○　小屋の中はアスファルトで清潔であり，年長児が当番を担当し，清掃をしている。
○　２匹はいつも仲よく一緒に行動し，おとなしくて扱いやすい。
○　雌の前歯と爪が伸びてきて，餌が食べにくそうであった。

2　事業内容（治療・相談内容等）

平成２４年１０月１１日（木）午前１０時～１１時　参加者（園児３７名　職員４名）
相談当日の朝，ウサギ当番の子どもたちが，死んでいるウサギ一匹を発見。
原因を究明するとともに，ウサギの状態や飼育の仕方について話を聞いたり，園児からの質問に答えていただいたりした。また，雄ウサギの伸びている爪を切ってもらったり，一人ずつウサギの心音を聞かせてもらったりした。

（獣医さんより）

- 前回見たときよりも一匹のウサギが痩せているように思う。前歯が喉の奥のほうから伸びていたので，餌を十分食べることができていなかったのではないか。
- 餌はラビットフードと牧草を与えるとよい。
- 寒くなってきたので，ビニールを貼ったり，小屋の囲いをしたりして寒さ対策をすることが必要である。
- ウサギは，自分ではきだすことができないので，餌についてあげてよいものやいけないものを区別することが必要である。
- ウサギの生態について，嬉しいときは泣いたり，怒っている時は耳を後ろにくっつけたりするなど全身で喜怒哀楽の感情を表現している。

（園児の感想）

- 心臓の音が速くてびっくりした。
- ウサギの前歯が伸びすぎて死んだのでかわいそうだった。

3　事業を通しての成果・感想・意見等

清水先生が，子どもたちの素朴な質問に丁寧にわかりやすく答えてくださったことで，よりウサギに親しみをもつことができた。また，聴診器でウサギの心音を聞かせていただき，小さな命を感じることができ，子どもたちにとって貴重な体験となった。ウサギも人間と同じように生きていることを知り，自分とは違う生命をもった存在として感じとることができた。

毎日欠かさずウサギの世話をしてきた年長児にとって，ウサギの「死」は衝撃的なものだった。ウサギの前歯が伸びていたにもかかわらず適切な処置ができなかったことを反省している。また，２週間後に２匹目のウサギが死んでしまったことで，細かい部分までの配慮や愛情が足りなかったことを反省した。

身近な飼育物とのかかわりをとおして，命あるものに対して親しみを感じたり大切にしようとしたりする気持ちをもつことができるように援助していきたい。

園 名	小松島市　小松島幼稚園
園 長 名	上甲 清子

1　動物飼育の現状・問題点等

園でウサギを飼うのは１匹が望ましい。２匹になると小規模園では経済的に厳しい。

ウサギ小屋の中が土でウサギにはよい環境であったが，職員数が少なく管理しやすいように，土間をセメントにしたら清潔で掃除しやすくした。

本園の環境として，ウサギを放し飼いにしても安定感のある園庭である。昨年度までは小屋にウサギを飼っていたが，園庭に放し飼いにすることで，幼児にとってウサギが身近な存在となった。小屋の中で飼うよりできれば，放し飼いで飼う方が（半日でも）良い。

１２月冬休みに入りすぐ，ウサギが高齢のため死亡する。現在はウサギは飼っていない。４月より飼う予定にしている。

2　事業内容（治療・相談内容等）

本園で平成２４年１１月８日（木）午後２時～３時まで，ふれあい動物移動教室を開催する。 園児，希望する保護者，小松島市内や市外の親子７０名の参加であった。

動物（犬・猫）を飼っている園児の家庭は３世帯である。動物は好きだが，飼うことに責任がもてない，またアレルギーもある。

周辺の地域の方は「自宅で動物は飼えないが，こんな機会があることが嬉しい」と語っている。園児はウサギを抱いて「ふわふわできもちいい」,「かわいい」と安心感をもって遊ぶ。土橋獣医師が犬に聴診器を当て「きこえるか?」，Ｊ児「きこえる。どきどき音がしょう」。先生が「これが，心臓止まったら犬も死んでしまう。人間も同じ。」と教えてくださった。

本園のウサギのトイレについての指導,放し飼いにしていること等を獣医師に相談する。ウサギにとって本園はいい環境であることを教えていただいた。

3　事業を通しての成果・感想・意見等

仕事の忙しさの中で，教師自身がウサギの習性など知らなすぎる。ウサギはとてもデリケートな動物であり，赤い血の尿をするときがある。それは食べ物によって，尿の色が違う。今になり，ウサギの習性や病気について，勉強し職員に伝えている。

教師が動物を好きでなければいけないことを痛感する。ウサギの死亡により，私たちは余りにもウサギのことを知らなすぎるので，動物飼育についての園での研修会を定期的に実施しなければいけないことを感じた。園でふれあい動物移動教室を開催をすることにより，責任をもって動物を飼うことの大切さを，園児，保護者，地域住民にも知らせるきっかけとなった。

学 校 名	鳴門市　成稔幼稚園
校 長 名	笠井　佳代子

1　動物飼育の現状・問題点等

○　２匹飼育しているウサギの内、２歳になる若い方のウサギの下の歯が６㎝ほど伸びてきている。餌は食べているがとても食べにくそうである。また、左目の色が白くなってきている。

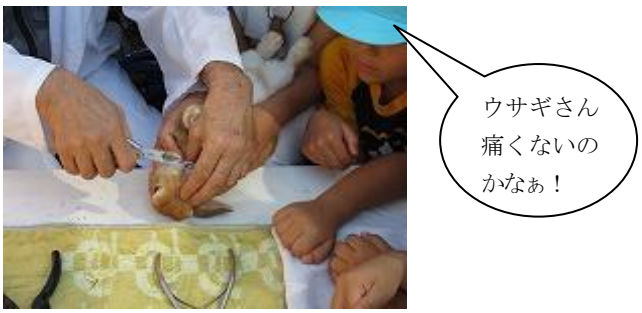
○　平成２３年度末の異動により職員が代わったため、昨年度に研修した内容の共通理解がむずかしく、改めて職員の研修が必要である。

2　事業内容（治療・相談内容等）

○　ウサギさん大丈夫だよ！　～年長児～　　９月２５日（火）

・　ウサギの伸びた歯と爪をペンチで切ったり、白くなった目に目薬を入れたりして、幼児たちにわかりやすく話しながら治療していただいた。その後、不思議に思ったことを質問して丁寧に教えていただいた。

【聴診器を使い心音の確認】



【獣医さんってすごいね】

○　ウサギさん強いね♪　～年少児～　　１１月２７日（火）

・　前回、治療していただいたウサギの目はだいぶきれいになってきたが、また歯が伸びてきていた。今回は、年少児対象で治療の見学とウサギについての飼育の仕方を教えていただく。
（１２月から年少児に飼育当番活動を引き継いでいくため）

【見せて見せて！獣医さん】

【教えて！獣医さん】

3　事業を通しての成果・感想・意見等

○　実際に獣医さんが治療してくださっているところを見たり、毎日ウサギの目に目薬を入れたりする経験を重ねたことにより、幼児たちはもちろん教職員も、以前よりウサギの様子を気にかけたり、よく観察したりするようになった。

○　年長児から年少児に飼育当番活動を引き継ぐときに、聴診器の使い方を知らせながら、ウサギの様子を見たり『うさぎノート』の記入を一緒にしたりすることを通して、相手にわかるようにやさしく伝えたり、一生懸命聞こうとしたりする様子が見られた。

○　小さな生き物を大切にする気持ちや、友達と代わり合ったり声を掛け合ったりして協力し合いながら世話をするなど、思いやりの育ちも感じられた。

学 校 名	徳島市　国府小学校
校 長 名	佐藤　靖彦

１　動物飼育の現状・問題点等

国府小学校には，現在２匹のうさぎがいる。子どもたちとのふれあい活動やうさぎの治療や飼い方などの相談等に協力してくださる獣医の方がいてくださると，ますます充実した活動ができる。

毎日の世話は，５，６年の飼育委員会が行っており，小屋の掃除やえさやりなど責任をもって活動している。掃除をきちんと行っているので，いつも小屋の中は清潔である。また，活動の合間には，ウサギをなでたり抱いたりして，大事にし，よくかわいがっている。

２　事業内容（治療・相談内容等）

１０月２日（火）の委員会活動の時間に，昨年に引き続き富田卓英 医師に来校していただいた。 事前に，「獣医さんにたずねたいこと」をアンケートし，そのことからお話をうかがった。飼育する上で気をつけることを教えていただいた。また，うさぎの健康状態を診察してもらい，「健康」と教えていただいた。

また，１年生の生活科の時間には，神山の動物愛護管理センターから職員の方も来ていただいた。センターの犬を連れて来てくださり，動物とのふれあい活動を行った。ウサギや犬の心音を大きく聞こえる器械で聞き，小動物の心音の速さに驚いた。また，背中をなでたり，だっこしたりして，その温かさやかわいさに，ふれることができた。

３　事業を通しての成果・感想・意見等

動物とのふれあい活動を通して，子どもたちと動物とのよりよい関係づくりができた。このような活動は子どもたちにとって非常に大切なので，毎年行っていただけたらありがたいと思う。各校と獣医さんの連携を図る簡単な方法が，あればよいと感じる。

園　名	鳴門市　里浦幼稚園
園長名	村岡　啓二

1　動物飼育の現状・問題点

○　リズム室横にある飼育小屋でウサギを３匹飼育している。３匹のうち１匹は子ウサギである。幼児と職員が一緒に掃除をしたり，餌をやったりして世話をしている。

○　時々ウサギ同士がケンカをしてしまうことがあるが，現在の飼育環境は適切であるかどうか。

2　事業内容（治療・相談等）

○　飼育相談　平成２４年１０月４日（木）　１３：００～１４：００

・　三谷先生に飼育環境を見ていただき，ご指導をいただく。
・　怪我をしていた子ウサギの足の状態を診察していただく。
・　ウサギに関する子どもの質問に答えていただく。
・　聴診器でウサギの心音を聞かせていただく。

【獣医さんに質問しよう】

【心臓の音を聞いてみよう】

3　事業を通しての成果・感想・意見等

○　子どもたちからの，「どうすれば動物と仲良くなれるんですか？」「どうしてお母さんウサギとお父さんウサギが一緒だと赤ちゃんが産まれるんですか？」という質問に，丁寧にわかりやすく答えていただき，子どもたちも真剣に話を聞いていた。また，聴診器でウサギの心音を聞き，「プロペラの音みたい。」「ごっつい早い！」と初めて聞く心音に驚いている様子が見られた。三谷先生の話を聞いたり，心音を聞いたりしたことでウサギを大切にする気持ちが芽生え，今まで以上に優しくウサギにかかわる姿が見られるようになった。

○　今年の春にウサギの赤ちゃんが産まれ，世話をしていたが現在の飼育環境が適切かどうか，職員自身も手探りの所があり，これでいいのか悩んでいた。三谷先生にウサギの飼育環境についてご指導をいただき，子どもたちだけでなく職員も大変勉強になり，責任をもって飼うということや，ウサギにとって住み心地のよい環境やかかわり方を考えていくことの大切さを教えていただいた。

学　校　名	徳島市上八万小学校
校　長　名	鎌田　二洋

1　動物飼育の現状と課題

（１）現在，飼育委員会の子どもたちと担当教諭がウサギの世話をしている。今年度，当初は５羽であったが，夏の暑さに負けて死んでしまったり，乳腺腫瘍を患ったウサギが死んでしまったりして，現在２羽になっている。夏の暑い時期のウサギの世話の難しさや，病気を早期に見つけることの難しさを感じている。

（２）飼育委員会のなかには，動物が好きで熱心に世話ができる子どももいれば，ウサギへの関心が薄く，週に一度の当番でもなかなか世話ができない子どももいる。

2　事業内容（治療・相談内容等）

２０１２年１１月６日（火）の委員会活動の時間に，ロビンス動物病院の井出獣医さんと逢坂獣医科医院の逢坂獣医さんにご来校いただき，飼育委員会の子どもたちを対象に飼育相談を行った。

（１）ウサギの診断

①　１羽のウサギに，胸からお腹にかけて赤く腫れあがっているような状態になっている部分があり，診察をしていただいたところ，乳腺癌という診断であった。手術をしなければ治らないが，手術をすれば体への負担も大きく，そのまま亡くなってしまう恐れもあるため，委員会の子どもたちと相談し納得できる方法を選択するようにと指導をいただいた。

②　健康な２羽については，少し太りぎみではあるが，えさをへらしたりすることは必要ないとのことであった。現在は，ラビットフードの他，キャベツとにんじんを与えているが，野菜だけでは繊維が足りなくなるため，ハコベ，ホトケノザ，タンポポなどの草を与えることも大切と指導をしてくださった。

（２）獣医さんと飼育委員会の子どもたちとの交流

①　ウサギの抱き方や心音を聴く体験

飼育小屋で，正しい抱き方を教えていただき，その後ウサギの心音を聴かせていただいた。子どもたちは，ウサギのぬくもりを感じたり，人よりも速くうつ心音を聴いたりして，生命の尊さにふれることができたようである。

②　飼育相談

前もって連絡をさせていただいていた質問事項について答えていただいたり，改めて感じた質問事項について丁寧に答えていただいたりした。主に，次のようなことであった。○えさの量や種類　○夏の暑さや冬の寒さへの対策　○飼育小屋の環境　○ウサギの健康状態の判断のしかた等である。その他，ウサギの体温や足の数，なぜウサギの目は赤いのか，ウサギを洗ってあげることはできるのか等の子どもたちの素朴な疑問についても，詳しく丁寧に教えてくださった。

3　事業をとおしての成果と感想・意見等

（１）専門家のお話を聞かせていただいたり，アドバイスをいただいたりすることで，ウサギについての理解が深まり，今後のウサギの世話についての意欲も高まったようである。「ウサギはとても温かく，心音が速くてびっくりした。」「これからは，忘れずに世話をしたい。」との感想からも，子どもたちにとって，とても有意義な時間となったようである。

（２）乳腺癌を患ったウサギは，井出獣医さんのご好意で，相談後すぐに手術をしていただいたが，腫瘍が体内で広がっており，手術後ウサギは亡くなってしまった。子どもたちはとても残念がったが，自分たちで相談して手術を決めたことで結果を納得して受け入れることができた。早急に対応してくださった獣医さんに，子どもたちと共に心から感謝をしている。

学 校 名	徳島市　南井上小学校
校 長 名	井関　義人

１　動物飼育の現状・問題点等

コンクリートでできた小さな小屋の中で２羽のウサギを飼っている。入り口の戸しか空気の入り口がなく，ウサギ小屋の換気も不十分な状態である。また，尿や糞も小屋の中でしていることが多いので衛生的にも良好ではない。

２　事業内容（治療・相談内容等）

飼育相談では，子どもたちにウサギの基本的な飼育の仕方を指導していただいた。餌の種類や量，環境のことや季節の変化において気を付けることなどを教えていただいた。また，日頃飼育をしていて疑問に思うこと等，児童からの質問にも一つ一つ丁寧に答えていただいた。基本的なウサギの飼い方に加え，今飼育している２羽のウサギの反応や様子を見ながら，そのウサギに合った飼育をすることが大切だと言うことが分かった。

また，ウサギの飼い方だけでなく，ひとつの命を預かっているということや子どもたちの将来への気持ちや願いについてもお話していただき,それぞれの生き方を改めて考える機会となった。相談を終えた児童からは,「ウサギのことが前よりも少し分かったと思う。」「これから餌の量などもウサギの食欲を観察して変えていきたい。」等の感想が出てきた。

３　事業を通しての成果・感想・意見等

ウサギにあげる餌の量や環境整備で注意すること，ウサギとの接し方などを話していただいた。児童たちからの質問や疑問にも細かく答えていただき，児童たちも日々お世話をする際にウサギの様子をより伺うようになった。また，ウサギだけでなく学校で飼っている金魚のことも意識するようになり，気付いたときには餌やりだけでなく水槽の掃除も進んで行うようになった。

学 校 名	北島町　北島北幼稚園
園 長 名	飯田　史男

１　動物飼育の現状・問題点等

＜現状＞

○　ウサギの赤ちゃんが２羽いる。小さいため、ゲージに入れて飼育している。

○　アレルギーや喘息の幼児がいるため、職員が餌をあたえたり掃除をしたりしている。

＜問題点＞

○　ウサギが小さいため性別がわからない。

○　園庭にある飼育小屋に移す時期を教えていただきたい。

２　事業内容（治療・相談内容等）

＜日時＞

平成２４年１０月１６日（火）　９時～１０時

＜参加者＞

幼児　４６　名　園長　１　名　教員　６　名　　計　５３　名

＜事業内容＞

アレルギーや喘息の幼児がいるため、視聴覚教材やクイズを通してウサギの特性を学んだ。また、ウサギの性別や飼育小屋に移す時期、エサなどについても教えていただいた。実際に獣医の先生が来園してくださり、たくさんのことを教えていただいたことで、子どもたちの興味や関心が深まった。「なんでウサギはお水を飲むの」、「どうしてウサギのしっぽは丸いの」など、たくさんの質問が飛び交い、実り多いものとなった。

３　事業を通しての成果・感想・意見等

現在、ウサギを園庭の飼育小屋に移して飼育している。園庭にある草を抜き、「これは食べるかな。」など、獣医の先生に教わったことを試しながら飼育動物とかかわる幼児の姿もみられている。また、実際に獣医の先生が来園してくださり、子どもたちだけでなく、職員も初めて知ることがあり、大変勉強になった。この事業を期に子どもたちの興味や関心がさらに深まり、とても感謝している。

学校名	石井町 浦庄幼稚園
園長名	岩本　美佳

１　動物飼育の現状・問題点等

園庭の飼育小屋で平成２４年４月より２羽のウサギを保護者の方からいただき飼育している。園児と職員が餌やり飼育小屋の清掃をしている。職員がウサギの生態をよく知らずに飼育していたり，２羽の性別がわからないまま同じ飼育小屋にいれたりしている現状である。また，ウサギとの触れ合いを通して心の教育に役立てたいと考えているが，子どもの健康に個人差があり実情には衛生面等において難しい面も多い。

２　事業内容（治療・相談内容等）

６月２１日，齋藤慎也獣医師に来園していただき，飼育状況について観察と指導をしてもらった。園児向けにウサギとの触れ合い方、健康状態の見方、餌のやり方など，教えてもらった。手作りの資料を使って園児に話したり,実際にウサギの心臓の音を聞かせてくれたりした。

１０月１８日には，職員研修としてウサギの生態を詳しく説明していただいた。雌雄の見分け方，飼育小屋の理想的な様子やあり方も話があった。

３　事業を通しての成果・感想・意見等

事業後，園児・職員共に様々な知識を得ることができ一人一人がウサギに深くかかわることができた。ウサギの世話をすることを通してより愛着や大切にする感情が芽生えているように思う。また，飼育小屋についても適切なアドバイスをいただいたことにより，保温対策などもすることができた。今後も齋藤先生には，定期的に相談やご指導をいただきたいと考えている。